

e-dream-s

No. 13 発行:2001.6.10 [特定非営利活動法人 イー・ドリームズ] 通信

初年度の事業を終えて

内閣府が5月22日に発表した「特定非営利活動促進法に基づく申請受理数および認証数・不認証数（暫定値）」によると、5月18日時点で、NPO法人の累計認証数（解散法人数を除く）は4018、累計申請受理数（解散法人数を除く）は4756となったそうです。

イー・ドリームズも、5月末に「初年度」を終え、6月から「2年目」の事業年度に入りました。今進めている「東書との写真プロジェクト」と平行して、イー・ドリームズ独自の「写真アーカイブ事業」を進めていきます。こちらは、日本語以外に、英語、韓国・朝鮮語、中国語などで写真を紹介できるよう計画中です。

「初年度」の事業と財政をしっかりと総括し、「2年目」を実りある年にしていこうではありませんか！

小泉先生は良い先生か

辻 莊 一

小泉内閣の支持率の高さの理由はいろいろ挙げることが出来るが、森前首相への反動という面が大きいことは、衆目の一致するところだろう。

小泉内閣の政策はまだまだ曖昧で「変化」というムードだけが先行している。したがって前内閣からの反動というのは、政策の違いに由来するものではない。私はコミュニケーション能力の違いによるものだ、と思う。コミュニケーション能力というのは話がうまいとか雄弁ということではない。「やりとりができる」ということだ。やりとりができるというのは、人の話を聞くことができ、イエスにせよノーにせよ、どちらでもないにせよ、その話に対する自分の立場なり意見なりを分かりやすく提示できるということだ。

前首相は、そういう意味でのコミュニケーション能力が決定的に欠けていた。実際の政策より

も、その話の聞かなさ加減が、つまり自分たちの意見を聞いてくれないという感じが、もっとも有権者をイライラさせていたのである。

学校でも、もっとも不人気なのは「話を聞いてくれない先生」である。生徒の話を見聞かず、自分のいいことばかりいう教師、或いはそう見える教師はおしなべて不人気である。教師をはじめとするいわゆる「上の者」のいうことはそのコミュニケーション能力に関わらず、有り難く聞くといい時代ではない。「生徒の話が聞ける」のはいい教師の必要条件である。もちろん、生徒の話が聞ければそれでいい教師と言えるわけではないが。

もちろんこのコミュニケーション能力の大切さは、学校以外の場所、政治の世界でも同じである。この場合のコミュニケーション能力とは、教師同士あるいは政治家同士ではなく、教師と生徒、政治家と一般の人間とのコミュニケーション能力だ。

そして、小泉首相は、少なくとも森前首相よりも鳩山民主党党首よりもコミュニケーション能力があるように見える。少なくとも人の話を聞く姿勢があるように見える。ハンセン病判決に関わったの決断はその姿勢の証明となった。

さて、小泉首相はすばらしい首相なのか？それはまだ分からない。いくらコミュニケーション能力があっても、何をコミュニケーションするのも大切な。コミュニケーション能力があっても中身がなければ、バラエティ番組での雑談に長けるコメディアンと変わらない。生徒の人気はあっても、教科やその教授法の知識が不十分な教師と同じである。それだけではいい教師、いい政治家には慣れない。

50年後に振り返って、小泉首相が少なくともコミュニケーション能力においては平均的な首相であるという評価になれば、日本も捨てたモンじゃないということになるのだが。

e-dream-s.come.true

New Global Standard への道

井 川 好 二

ネパール人のSに、久しぶりに会った。5月30日のこと。去年の夏、彼の結婚式に出席して以来である。在日10年を越す彼は、関西にある国立大学の経済学部で博士号を取り、現在、神戸の私立大学で教えている。ネパール語に加え、英語も日本語もよくできる。それで、Sと話すときは、いつも、関西弁。便利である。こういう外国人と話す度に、「国際語としての日本

語」の存在もありかなと思わされる。

彼の勤める大学の英語の授業に、ネイティブスピーカーの講師が至急入り用で、私の知り合いのアメリカ人を紹介するのが今回の用件。そうすると、今度は英語の出番。勤務条件は？学生数は？大学の最寄り駅は？などの話題を、アメリカ人、ネパール人、日本人の三者が、英語を媒体に話し合う。こちらは、紛れもない「国際語としての英語」によるコミュニケーション環境である。

そういう些か込み入った英語でのビジネストークを終えてから、S と二人でビールを飲みに行った。その日に、ネパールとインドへの出張から帰ったばかりと云うSは、しきりにネパールと日本の交流について話す。

「ポカラで、国際会議をやりませんか？」

「エエ？ポカラは知ってるけど。ヒマラヤの登山口。この間行ったよ」

「センセも行かれましたか。良いところでしょう？」

「そうやね。ヒマラヤは見えなかったけど、湖の畔のホテルは良かった」

「あそこでね、センセ、ダボス会議の向こうを張る会議をやりましょ」

「うーん」

S は、年一回開かれるダボス会議（世界経済年次総会）が、民間の主催とは言いながら、欧米主導でGlobal Standardを世界に提示する会議になっていることが、気に入らないようである。

「あんなスイスの山の中でやる会議に、世界中から集まるんですよ」

「そう言えばそうやな」

「ネパールのポカラの方が、ずっと良いですよ、センセ」

「そうかも知れんね」

「それで、もっと若い人を呼びましょう。アジアを中心に。中国もインドも、東南アジアもアラブも。アメリカも来たかったら来ても良いし」

「なるほど。アジアから発信する New Global Standard か」

やっと、S の意図するところが見えてきた。21世紀はアジアの時代。そのアジアの若い声を吸い上げ、世界に発信する場を、ネパールのポカラに設ける。中国とインドの真ん中にあるネパールが、アジアが提唱する New Global Standard の発信基地になる。そのことで、序でにネパールも潤う。

「e-dream-s も、主催者に加わってもらいたいですね」

「そやなあ。教育の立場から発言もしないと」

「そうなんです。経済や政治の立場からの発言は結構多いんですけど、Global な場での教育の立場からの発言は、以外と少ないんですよ、センセ」

「なるほど、おもしろそうやね」

「是非、一緒にやりましょうよ」

e-dream-s の将来アジェンダに、21世紀の New Global Standard を提唱する「ポカラ会議」の主催を加えるのも悪くない。

「けど、金はどれくらいかかるのかな？」

「まあ、3千万くらいですかね？」

「うーん」

「ネパール国内の交通費は、王室にかけあつて無料にできるかも知れませんよ、センス」

「ええ？そんなコネあるの？」

S は、時々そんなとんでもないことを平気で言い出す。そんな時は、話半分とってしまうのだが。

「連休の時に、ネパールの皇太子が京都に来たんですよ」

「へーえ」

「その時、いろいろな話をして、彼の考えていること、随分分かりました」

「なるほど」

「それで、センス、彼はもうすぐ国王になりますから、そうなったら、センス、われわれの『ポカラ会議』にも協力してくれると思いますよ」

「ほう」

「今度、センスがネパールに行かれる時に、皇太子にお会いできるよう手配してみましようか？」

「皇太子は英語できるの？」

「できます。できます。面白い話になると思いますよ」

その日のS との話はそれで終わり、今度は京都で会って話を進めようと云うことで分かれた。

2日後の6月1日、ネパール王室での事件が報道され、国王、王妃を始め王室一家の多くが銃で惨殺されたことを知った。その事件の首謀者が、S の話に出てきた皇太子であるらしいとも報道された。自殺を図ったと見られる皇太子もその後、病院で死去。カトマンズでは事件の真相究明を求めて、民衆の暴動が起こっていると伝えられる。

S とはあれ以来、連絡をとってはいないが、ショックを受けているだろうと想像できる。

これで「ポカラ会議」に王室の協力が、得られなくなったのかも知れない。しかし、その発想は面白いと思うし、将来そんな会議を主催できる e-dream-s でありたいとも思う。但し、何と云っても、私が将来関係するかも知れないプロジェクトと、遠いカトマンズの惨劇が、間接的

にもしる繋がっているような気がするところが、このエピソードの眼目であり、そこにアジアを起点とする新しい世界観の取っ掛かりが見えるような気がする。(Saturday, June 9, 2001)

NPO への支援施策の拡充を！

中 川 房 代

久しぶりに大阪府のホームページを見た。知りたい情報は、その中の NPO 関連情報である。

(<http://www.pref.osaka.jp/danjo/vngroup/index.html>)

というのも、まだ多いとは言えないが、最近、全国の自治体から NPO との協働・支援策が出てきているが、イー・ドリームズの事務所のある大阪府の場合はどうなっているんだろう、と思ったからである。

2つの新しい情報があった。実施要項は PDF 文書になっており、早速ダウンロードして読んでみる。

- その1 「NPO 運営強化のためのサポートプロジェクト」～運営基盤とサポート体制の構築に向けて～ の募集
(大阪府 2001 年 NPO 運営マネジメント事業；緊急地域特別雇用対策事業)
- その2 「NPO との協働推進プロジェクト」公募事業 ～NPO と行政のパートナーシップを目指して～ (緊急地域特別雇用対策事業)

2 は、「中間（支援）組織」と呼ばれる NPO の活動を支援する組織（大阪で言えば、たとえば「大阪 NPO センター」とか「大阪ボランティア協会」などがこれにあたる）が主な対象になっていると思われるので、ここでは省略する。

1 の趣旨説明によると、

・・・国際、環境などの多様な分野に広がりを見せているこうした活動は、様々な公共的サービスの提供主体としてだけでなく、新たな地域社会づくりと分権型社会を促進する主体としても、その発展が期待されています。・・・NPO から企画書を公募し、事業を委託するものです。

これは緊急地域特別雇用対策事業に基づいて行われる事業で、実施期間中に新規に 1 名雇用することが義務づけられ、NPO 支援組織のサポートを受けながら、大阪府の事業として行われる、と書かれている。

補助・助成事業ではないので、プロジェクト内容に関して大阪府との調整を求められる場合があるだろうと思われる。その意味では、この大阪府の事業は「100%OK」とは言えないが、

行政との協働や事業や財政・運営面の強化という点では意味があると思う。

因みに、昨年度の実施事業は、3つ。

1. (特活) 関西子ども文化協会 「地域が育つボランティア活動の促進プロジェクト～NPOから教育現場へのアプローチ」
2. (特活) 北河内ボランティアセンター 「府民のボランティア活動促進のためのコーディネート調査・研究事業」
3. (特活) 多文化共生センター 「翻訳・通訳ボランティアの募集と研修、登録に係る事業」

NPO 団体への地方税軽減の動きも広がってきている。政府は、10月から NPO への優遇税制を実施することを決定した（問題は適用される団体は皆無に等しいことであるが...）。現在、多くの地方自治体では、収益事業を行わない NPO に対して、法人税の均等割の免除を行っているが（e-dream-s も適用を受けた）、岡山県では、収益事業を行っていても赤字の団体に対しては設立3年分の均等割を免除したり、不動産取得税を免除したりという制度を作っている。宮城県や鳥取県でも、県議会で、様々な優遇措置を検討しているそうである。（5月21日 日経新聞）

また、労働厚生省が提唱する「勤労者マルチライフ支援事業」により、11都府県（茨城、群馬、東京、神奈川、長野、愛知、京都、大阪、兵庫、広島、山口）で、経営者協会や NPO・ボランティア団体に、ボランティア希望者を実際の活動に結びつける「プロジェクト・マネージャー」が配置され、地域のボランティア情報のデータベース化を進めていく事業が始まっている。（6月3日 日経新聞）

近畿の自治体では、NPO 支援施設の開設（大阪府、京都市）、団体のデータベース作りに協力（京都府）、NPO への資金貸し付けの開始（兵庫県）などを行っていく、と報道されている。（6月8日 日経新聞）

これから、NPO 活動をもっとやりやすくし、また活発にしていくためには、より一層、支援策や事業を拡充することが必要である。他の団体とも協力しながら、私たちが積極的に要求し、利用できるものはどんどん利用していきたい。

1 月末の「タイ弾丸ツアー」で出会い、その後、イー・ドリームズと OJSAT(Old Japanese Students' Association Thailand)の間で進めてきたプロジェクト(10 月末、日本への研修ツアー)は先方の都合により、中止となりました。今後も交流を続け、次回に期待したいと思います。

e-dream-s ホームページ

原 口 恵 美

e-dream-s ホームページの検索サイトへの登録が完了しました。

Yahoo Japan や Fresh Eye を始め、国内210箇所のサイトから検索できるようになりました。これまでは、e-dream-s のことを知っている人しかアクセスできませんでしたが、今後は、一般にも広く公開されたということになります。ますます、ホームページの充実を図っていかねばなりません。と思いつつも、なかなか作業にとりかかれぬ状況で、みなさんに、ご不便をかけてしまい申し訳ありません。

これから、現在の e-dream-s ホームページに追加・改善していきたいと考えているのは、以下のとおりです。

1. 英語版の作成

国際化をキーワードにしているからには、必須。イギリス・ツアーやタイとの交流プロジェクトにおいても重要な役割を担いそう。原稿は完成しているので、早急にとりかかり、6月中に完成が目標！

2. Information のページ作成

セミナーやツアーなど、様々な企画のお知らせや協力の依頼をするためのページを作りたい。

3. What's New のページの改善

e-dream-s の活動の状況を報告するページ。少し使い勝手が悪いので、写真なども、どんどん掲載して更新しやすく改善したい。

などです。また、これらの作業は業者に頼ることなく行ったほうが効率よく、また、コストもかからずにすみます。現在、ホームページ作成ソフトや簡単な HTML の書き方について勉強をすすめているところ。ホームページに関するみなさんの積極的なご意見をお待ちしています。

E-DREAM-S 通信 2001.6 No.4

NEWS A バックナンバー目次作成へのご協力へのお礼と

再々のおねがい

NEWS A の CD-ROM 化プロジェクト担当 丸野・飯田

以前に2回のご協力をお願いしましたところ、大阪では朴さんと後藤さんがお手伝いいただき、心からお礼申し上げます。朴さんは2001年イギリスツアーの担当で非常にお忙しいにも拘わらず、「エクセルを覚えられるし、やらせてもらいます。」と前向きの姿勢で引き受けてくださいました。後藤さんは7月にご出産を控えておられるのに、家にいて e-dream-s や ACROSS のためにできることがあれば、少しでもさせてもらえるんでしたら。」と優しく申し出てくださいました。大阪ではお二人に1年分ずつ受け持ってもらって大助かりで、私があと2年分をかたずけるとこちらのノルマは完了です。

東京のみなさま、丸野さんを手伝ってあげてください。もちろん私も自分の分が出来上がれば丸野さんを手伝います。丸野さんは比較的新しい年度のものを作成をしていますので、プリントの枚数が年々増えていって量的に私よりずっとたいへんです。でも、私が扱っている古い原稿はザラ紙印刷だったので読みづらいものが多いですが、ここ3~4年前からは上質紙使用なので判読の苦労はありません。この目次作成が完成しないと CD-ROM に書き写す次の作業にはいれません。それでは CD-ROM の完成が遅れるばかりです。

東京の会員のみなさま、目次のフォーマットもあるのでそれにタイピングするだけでいいのです。原稿を読みながら ACROSS の活動について考えるのも有意義ですよ。

大阪の会員の方でも丸野さんのお手伝いを申し出ていただければありがたいことこの上なしです。よろしくおねがいします。

報告：駐日モンゴル国特命全権大使 講演会「大使と語ろう」〈東京〉

大竹勇次

講演：『最近のモンゴル国の政治、経済情勢について』

5月30日(金) 18:30 から司法書士会館内の日司連ホールにて、日本モンゴル親善協会主催による「大使と語ろう」会が催され、雨の中 200 名に及ぶ参加者があった。

e-dream-s からは志村、佐藤、大竹の 3 名が出席、大使の適切にして十分な日本語に驚き、「人にものを語るお手本」と感歎した。

冒頭、司会者より、モンゴルでは 1996 年より、司法制度改革を行っているが、登記制度の導入に伴う実務援助に 日本書士連盟から毎年専門家が派遣されているとの紹介があり、その援助に対し、大使から司法書士連盟会長の柴田氏へ感謝状が手渡された。

話は 5 月 20 日に行われた大統領選挙結果から始まった。人民革命党(旧共産党)のバガバンディ大統領(51)が、58%の得票率で、野党民主党の前国民大会議長のゴンチグドクジ氏、36%を破り、再選された。大統領、首相、議長、議会が全て、人民革命党の手中に入り、一党独裁による共産化を懸念する声に対して、24 ある政党すべてがモンゴルの民主化をめざし、経済発展に力を入れることで一致しているので、後戻りは決してないと断言。

モンゴルはもともと社会主義国家ではなく、中国を追い出す手段として、1921 年、ソ連と手を結んだのであり、やむを得ざる選択であった。労働者階級の思想は初めからあわないものであり、1950 年、60 年、70 年と 10 年ごとに社会主義理論を批判する動きはあったが、それ以上は動けなかったのである。

モンゴルの課題：新しい発展をどうやって実現するか。モンゴルは自分を探している最中で、モンゴルの特徴が見えてくれば進む道も分かってこよう。

モンゴルの課題はまず、教育にある。社会主義時代の教育を受けた 25 歳以上の人々の頭を改革しなくてはならない。

インフラ整備。電力、通信を整備し、国内産業を育て輸出につなぐ。そのために金融システムの改革。自然環境を壊さない環境開発。観光にも力を入れるが、そのためには資金、ノウハウの援助を期待したい。外交は 1946 年から変わらないが、日本への期待は全て面で大い。

質問コーナーでは、経済改革を進めながら、インフレが起こらないようにできるのか：

E-DREAM-S 通信 2001.6 No.5

失業率、貧困、年金などの問題は深刻であり、約束してもすぐには実現できない。

ゾド(雪害)は天災か人災か： 両面である。異常気象であったこと。もう一つは、社会主義時代のような協力体制がなかったことである。

最後に、馬頭琴演奏が5曲あり 「大使と語ろう」会は終わった。

連載：「日本語教授法講座」受講日記

全権大使報告 (2)

飯田 佐恵

5月の下旬から外国人のための日本語教授法講座第2ステージの共通語（応用）コースもあと残り半分の5回になりました。

週に2回ですからせわしくて、毎回、当学校がつくったオリジナルの「外国人のための日本語会話練習」というテキストの中から1つ各自が選んだものを録音していく宿題があります。自分が実際に外国人の前でこのテキストを使って授業をすすめることを仮定して学習者に対する指示の言葉もつなぎとしてつけながら録音しなければなりません。テキストは共通語のアクセント符号だけがつけてあるので、あとはこれまで講座で学習したことをふまえて自分でよく練習して録音するのです。いくら日本語といっても私がふだん使わない共通語（標準語）アクセントで読むのですから、照れるし、まだまだ不自然になります。この状態はACROSSでの発音、Reading訓練の時と全く同じだと痛感しています。

前回は英語や大阪弁や共通語の混乱で戸惑っていることを述べましたが、今日はACROSS訓練の成果が役立っていることを一つ述べたいと思います。

それは教師の発声は横隔膜呼吸です。

次に日本語の大二美点といわれる①ガ行の鼻濁音と②母音の無声化があって、①は誰でもできますが、②についてはACROSSの訓練の効果が非常に生かされています。母音の無声化とは無声子音に挟まれた母音の“イ”と“ウ”が発音されずに子音だけが発音されるのです。例えば「サシスセソ」の“ス”は su-se となっているが、発音するときは s-se と“ス” su の u を発音せずに息だけで s というのです。これは文末のアクセントが下降調の場合にも当てはまり、「～です。」の“ず”は desu ではなくて des と息をはきながら終わります。この無声化現象によって日本語がはぎれよく美しく聞こえるそうです。ほかに、“ヒ” “フ” “チ” “ツ” “シ” “シュ” が “h” “f” “ts” など母音の i, u を先の条件のときに発音ません。これはACROSSで子音の発音訓練をしたものにとっては明瞭で正確に発音できます。私は自信たっぷりです。

ところが、おっとどっこいです。ある時、「医者イシャ」がとてもいいにくかったのです。それは英語のように息を吐き捨てて終わっていたので、しまりがいいのです。先生から「イシャと

止めたらいいですよ。」注意を受けました。どうするのかを考えたら、sha と日本語にははっきりと母音の a をつけなくてはならないのです。

このように、「あちら立てればこちら立たず。」で、まだまだ苦労が続きますが、最初に正しいきれいな音を聞いて学習する方法を学ぶのはおもしろいです。そうそう、いつも講座の初めは ACROSS 訓練のように、「口の体操」といって先生のあとについて大声で文章を読み、自分の声の調子を整えるのですよ。

それでは、また次回の報告まで。

お知らせ：写真アーカイブ事業 作業

東書への第 1 回の写真提供は、5 月末に「中国」「モンゴル」合計 268 枚を完了しました。第 2 回は、「アメリカ」「イギリス part 1」です。以下の日程で写真選択と説明文の作業を行いますので、参加をお願いします。

日時：6 月 24 日（日）午後 1 時～

場所：藤澤理事宅（兵庫県西宮市）

*当日参加できない方は、前日までに写真を郵送してください。（説明文添付のこと）

E-DREAM-S 通信 2001.6 No.6

お知らせ：NPO 税制説明会

内閣府は、10 月 1 日から導入される新しい NPO 優遇税制に関する概要説明会を全国各地で開催

します。これは、NPO 優遇税制を含む租税特別措置法等の一部を改正する法律が本年3月に国会で成立し、本年10月1日から施行されることとなったのをうけて、この制度の概要に関する説明会を行うものです。

説明会は6月初旬から下旬にかけて、全国13ヶ所で行われます。
開催地、日時、場所、問い合わせ先の主なものは、下記の通りです。

是非、お住まいの近くの説明会に参加して、NPO 税制について理解を深めてください。

● 埼玉県

日時：6月20日（水）14：00～16：00

場所：埼玉会館（さいたま市高砂3-1-4）

問い合わせ先：埼玉県総務部県民生活課NPO・ボランティア担当

Tel：048-830-2818

● 東京都

日時：6月25日（月）18：00～20：00

場所：豊島区立豊島公会堂（豊島区東池袋1-19-1）

問い合わせ先：東京都生活文化局都民協働部市民活動推進課NPO法人係

Tel：03-5388-3095

● 神奈川県

日時：6月22日（金）14：00～16：00

場所：神奈川県生涯学習情報センター（横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2）

問い合わせ先：神奈川県県民部県民総務室県民活動促進班

Tel：045-210-3621

*大阪、京都での説明会に参加を希望される方は、別紙申込書に記入の上、大阪会場については大阪府生活文化部府民活動推進課へ、京都会場については京都府府民労働部府民労働総務課へ、郵送、FAX又は電子メールで、6月22日（金）までにお申し込み下さい。

● 大阪府

日時：6月29日（金）18：00～20：00

場所：大阪府立労働センター／エル・おおさか（大阪市中央区北浜東3-14）
問い合わせ先：大阪府生活文化部府民活動推進課ボランティア・NPOグループ
Tel：06-6941-0351(ex.4834) F A X：06-6944-6645
E-mail：fuminseikatsu-g01@sbox.pref.osaka.jp

● 京都府

日時：6月30日（土）13：00～15：00
場所：京都商工会議所（京都市中京区烏丸夷川上ル）
問い合わせ先：京都府府民労働部府民労働総務課
Tel：075-414-4210 E-mail：huminro@mail.pref.kyoto.jp

● 福岡県

日時：6月8日（金）13：15～14：45
場所：福岡県中小企業振興センター（福岡市博多区吉塚本町9-15）
問い合わせ先：福岡県生活労働部生活文化課県民活動支援係

NPO Event ◆.....

NPO支援税制「その後」を考えるフォーラム（福岡）

.....◆
日時：6月16日（土）午後1:00～3:00
場所：パピヨン24 12号会議室
（福岡市博多区千代1丁目17-1）
報告：松原 明氏（シーズ・市民活動を支える制度をつくる会 事務局長）
参加費：資料代として500円
主催：NPOふくおか
共催：NPO／NGOに関する税・法人制度改革連絡会
参加申込・問い合わせは、NPOふくおか 事務局
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町5-18 ぎんなんビル4F
Tel/Fax 092-262-1454

（以上の情報は、シーズのホームページ <http://www.npoweb.gr.jp/> から入手しました。）

E-DREAM-S 通信 2001.6 No.7

お知らせ：『NPO 商品カタログ』

「吟醸酒・大地のおくりもの」。

新潟県長岡市に拠点を置く NPO 法人、地域循環ネットワークの商品です。

この商品の特徴は、地域の学校給食、食品加工業者、家庭から生ゴミを回収し、畜産飼料として使い、畜産業者からでる糞尿を堆肥にし、その堆肥で農家が有機米を栽培し、地元の酒造業者が有機米吟醸酒に加工して NPO が販売している、という点。

「大地のおくりもの（吟醸純米酒）四合瓶」

一本 1800円（税込）

問い合わせ：地域循環ネットワーク（0258-34-4450）

または（株）関屋商店 広川洋介

<http://www.nct9.ne.jp/sekiya/> e-mail:yousukeh@nct9.ne.jp

販売期間：年二回 七月中旬頃・十二月下旬頃

（この情報は、シーズのメールマガジン NPOWEB Mail Magazine 2001-05-30 No.011
より抜粋させていただきました。）